



# 図書館だより

2026年  
6月26日発行

秋草学園高等学校 図書館

6月12日(金)、ゲリラ雷雨が発生し大粒の雹(ひょう)が降った入間市にいました。埼玉県西部S地区の図書委員研修交流会の会場は入間市産業文化センターです。当日は長く引っ張るような雷鳴も響く中、本校の図書委員2名が凛々しく参加いたしました。人生初の雹も、窓越しにじっくり観察できたようです。講師水鳥香葉氏による講演会「ぶっちゃけどうなの？図書館員のおしごと」を聞いた後、生徒は8つの分科会から希望したものに参加し、近隣高校の図書委員との親交を深め、楽しい時間を過ごしました。参加した図書委員の感想を紹介します。(鈴木)

「私は狭山工業高校主催のレーザー加工機を使ったしおり作りに参加しました。しおりを作りながら他校の生徒とたくさん話すことができとても良い経験になりました」(Kさん)

「私はステンドグラス風しおり作りに参加しました。他の学校の人たちと交流でき、楽しくしおりを作ることができました」(Sさん)

## 芸能人、まさにタレント、の本

### 913.6-7 『青天』若林正恭(著)/文藝春秋

「あおてん」と読みます。アメリカンフットボールにて「試合中に選手が仰向けに倒されること」だそうです。オードリー若林さんは高校時代アメフト部、弱小校、部活やめる、再開する。苦しいけれども、青い空を仰ぐ姿をつづりベストセラーになりつつありますとこの原稿を書いていたなら、直木賞候補になりました！7月に発表です。

### B914.6-7 『たけしくん、ハイ!』

ビートたけし(著)/新潮社

40年以上前の芸能人の本のベストセラーは自伝つまりノンフィクションが多かったです(黒柳徹子さんや山口百恵さん)。今となっては歴史書ですね。発表当時は、おバカなことをやっているお笑いさんがきちんとした本をだしたとびっくりしました。ビートたけしさんの子ども時代のお話で、70年位前の東京の日常がリアルに読み取れます。

### 913.6-7 『火花』又吉直樹(著)/文藝春秋

2015年、お笑い芸人としてはじめての芥川賞受賞。結構寝耳に水の受賞で、テレビで速報を伝えるアナウンサーが「花火、はなび」と間違えて連呼していた記憶があります。お笑い芸人侮れずという感じで、その後もたくさん小説を発表しています。

### 913.6-カ 『ピンクとグレー』

加藤シゲアキ(著)/角川書店

内容は芸能人で作家のお話、主人公は加藤シゲアキさん自身?と思うかもしれませんが、これは小説。そして、又吉さんと同じく加藤さんもたくさん小説を書いています。もはやアイドルではなく作家さんですね。

### 779-ヤ 『それこそ青春というやつなのだろうな』

やついいちろう(著)/パルコ出版

こちらは自伝でありながら「お笑い」に特化した内容です。言わば、自分のお笑い歴です。お笑い界で認められるために、こんなにも紆余曲折の努力があり、「青春なんだな」と振り返る、ある意味軽い(重くない)内容です。

## 新着コーナーの気になる本

### 320-』 『それ犯罪かもしれない図鑑』

小島洋祐(監修)/金の星社

ちょっと「やましい行為」が犯罪であるか否かを弁護士さんが解説しています。無灯火自転車・落書き・花泥棒・迷いネコポスター……。まあ、ほとんどが犯罪です。中には許可をとればOKなものもあります。この本を一読(親しみやすいイラスト満載)すればわかることですが、常識とマナーを守ればなんてことない、どんと来いです。

## 司書の今月はこの本読みました

本を読まない司書ですが、テレビドラマの中島健人さんのリアルさに感激して、原作の『コンビニ兄弟 テンダネス門司港こがね村店』(町田そのこ/新潮社/B913.6-7)にかじりつきになりました。フェロ(モン)店長と呼ばれる主人公の優しさで、彼を取り巻く人々の魂の解放を描いています。みなさんと同じ中・高校生のいじめや仲間外れなど、一見読むのがつらいと思われるテーマもいやな気持ちを抱かせず、親しみやすいのに深い文章です。現在5巻まで発行されています。読んでみると「脳内ケンティー」がしゃべるのですが、ドラマを見ていなくても脳内にケンティーが住み着くので、ドキドキしたい方にもおすすめ。あ、上記加藤シゲアキさんも出演していましたヨ!

町田そのこさんの芋づるで『ハヤディール戀記』(上・下/町田そのこ/PHP研究所/B913.6-7-1, 2)も読みました。「戀」は「恋」です。許されない関係のラブロマンスファンタジーかと思いきや、過酷な運命に翻弄される女性たち。いろいろなジャンルを描いている町田そのこさんの引き出しの多さに感心です。【横関】